# 一方向提供型→双方向参加型

Venture fourth は今日で 10 号目を迎えました。

すでに通信に対して、メッセージやお手紙を通じて嬉しいお便りが届き始めています。

少しだけ、紹介させていただきます。

今日は授業を見学させていただきありがとうございました。

先生の授業はテンポが良く勢いがあって、子ども達も自然と引き込まれて、わくわくしている内に勉強になっている、そんな印象を受けました。

個人的には国語のたけのこ読みが非常に面白かったです。

序盤は緊張感とともに譲り合うことに集中していた子ども達も、途中の短いセリフで同時多発的に立ち上がって笑いが起こった辺りから、言ったもの勝ちで相手が引くまで押し通すような場面もあり、あの 10 分でも子ども達の心情の変化を感じられ興味深かったです。今後何度も経験する内に、子ども達の集中力や連帯感、周囲へのアンテナなど高まっていきそうですね。

自分自身が小学生の頃は、音読といえば席順に回ってきて自分が選んだわけではない箇所を仕方なく読んでいた記憶ですが笑、今日の様子を見ていると多くの子ども達は読みたいんだな、学ぶってやはり心躍ることだよな、と昔の消極的な自分を思い出しながら感じました。白い帽子、温かくて素敵な話でした。

今日伺うことができて本当に良かったです。ありがとうございました。またお邪魔します。学級通信からリンクの Youtube も、普段の様子を知れて大変有難いです。

お忙しい中、様々な方法で伝えてくださり、感謝いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

素敵なメッセージをいただき、誠にありがとうございます。
授業の「テンポ」のお話、気づいてもらえてとても嬉しいです。
よく全国の先生方に向けてお話をする機会があるのですが、この「テンポ」の話題だけでおそらく１時間は楽に話せます。(笑)
それくらい、授業におけるテンポやリズムは大切な要素であり、ここが上手に扱えるようになると、それだけで「ワクワク感」や「楽しい雰囲気」を創り出せるようにもなります。
パーソナルテンポ(固有テンポ)という研究分野で、この内容が少しずつ明らかにされてきました。
パーソナルテンポとは、話す、歩くなど、特に制約のない状態で自然と表出される個人固有の速さのことを指した言葉です。
すでに多くの研究が行われており、社会的な認知も少しずつ高まってきている分野です。
以前、「世界一受けたい授業」というテレビ番組に登壇した千葉大学の一川誠准教授は、番組内で次のように述べました。

人それぞれ、心地よいと感じる間合いというのは違うものです。これはパーソナルテンポと呼ばれています。自分のテンポと違うテンポで行動するというのは、非常にストレスが高くなると言われています。

もちろん、社会で生きる以上何らかのストレスがかかることは避けられないとも思いますし、生きていく上で適度なストレスが必要なことも十分承知です。
大切なのは、こうした内容を教える側が把握しているかということと、ストレスフルにならないように一定の配慮ができるか、という事だと思っています。
尚、一連の研究成果を見る限り、次のことも明らかになってきています。

- 年齢が低ければ低い程、早いテンポを好む傾向がある。
- 男性よりも女性の方が、心地よいと感じるテンポが若干早い。

よく、「小学校の低学年ではゆっくり話した方がいい」という暗黙の了解があったりしますが、それすらもエビデンスを良く見直す必要がありそうです。
私自身も、１ 年生を担任した際、通常よりゆっくり話すよりも、むしろテンポよく話した方が、子どもたちがよく聞くし集中力も高くなることを実感しました。
テンポの話だけで止まらなくなってしまいました。すみません。(笑)

音読の話もそうですが、どのようなテンポ感で授業を進めるかということは、授業において小さいことのようで実はとても大切なファクターです。
それぞれ異なる感覚を持った子どもたちが集うこの教室において、心地よいとみんなが感じられるテンポ感を授業の中で追求していきたいと思います。
（youtube リンク、喜んでもらえてよかったです！！）

渡辺先生
４年生担任団の先生の皆様

おはようございます。
〇〇の母です。

４年生になって１週間経ちました。
今までも学校が好きな息子でしたが、４年生になってからは格別に楽しそうに学校へ通うようになりました。
先生方の手厚いサポートのお陰だと思います。毎日ありがとうございます。

先週の始業式の日は、学校から戻りスクールバスを降りてくるなり

一日中ものすごく楽しかった！
今日の国語が今まで受けてきた授業で１番面白くて感動した！
４年生すごく楽しくなりそう！！

と目を輝かせて報告してくれました。

一体どんな国語の授業だったんだろうと興味津々でしたが、
昨日の“ Venture fourth”を拝見して、国語の授業をクラス全員が前のめりになって
夢中で取り組んだ臨場感が伝わってきて感動しました。

山本先生からの一言メッセージも、とても喜んで持ち帰ってきました。
子供のことをよく見ていてくださることに、親子で嬉しい気持ちになりました。

金城先生は、先週藤が丘ルートのバスティーチャーとして
子供たちひとりひとりに声を掛けて温かく接してくださっている姿を拝見しています。

サム先生は“ Venture fourth″第１号の自己紹介でスパイダーマンの台詞を引用されていて、
きっとユーモアあふれる英語のレッスンをしてくださるのだろうなと思っています^^

４年生が始まってまだ１週間ですが、
素敵な先生達と出会えて本当に良かったなと感謝の気持ちをお伝えしたくてメールさせていただきました。

これから１年どうぞよろしくお願いします。

担任団の先生方お一人お一人にメッセージを届けていただき、ありがとうございました。
このお便りの陰で、職員室で先生方の表情に笑顔の花が咲いていました。
こうして日々の教育活動についてご感想を寄せていただけることがどれほどありがたく、また力になることか。
私は、保護者の方から寄せられる言葉のことを「力水」と表現して発信することが多いです。
手前味噌で恐縮ですが、昨年の３月に発刊した拙著の「はじめに」には次のように書きました。
少し長くなりますが、大切な部分なので引用します。

（前略）お家の方から寄せられる温かい一言は、我々の日々の仕事の疲れを吹き飛ばし、仕事への活力をみなぎらせる、いわば「力水」のような存在です。
一方、こうした言葉の多くを教師が受け取ることのできるタイミングは、ほぼ決まってしまっています。
それは、一年間の「終わり」の時です。
クラスが解散する時。子どもたちが卒業する時。
一年というロングコースを懸命に走り抜き、ゴールテープを切る頃に寄せられることが多いのが先述のお便りです。
フルマラソンにたとえるならば、40㎞以上もの道のりを走り、ゴール間近になってようやく給水ポイントがあるようなものです。

無論、そのことにも意味が無いわけではありません。
走り切った後の給水にのどを潤し、次年度への決意を新たにする人もいるでしょう。
しかし、「超多忙」「業務過多」が叫ばれるこの過酷な環境の中で、沢山の荷物を背負い、最後まで走り切ることができずに倒れる仲間が多数いることもまた事実なのです。
私は、この状況は学校教育に携わるすべての人たちを不幸にするシステムエラーだと考えています。
給水ポイントは、途中にいくつかあった方がよいです。
コーチからの檄や仲間からの声援も、頻繁に届いた方がよいに決まっています。
荷物が多いなら、一人で全てを持たないでシンプルに分担すればよいはずです。
こんな当たり前のことが、今の学校現場では中々実現できずに、そこに携わる人たちが疲労困憊している状況が存在するのです。
私は、教師とは「伴走者」のような存在だと思っています。
子どもたちが走る人生の隣を、一定期間共に走る伴走者。
そして、そのまた隣には、より長い期間を伴走している保護者の姿があります。
他にも、多くの方が子どもたちの成長を様々な形で応援してくれていることでしょう。

本来ならば、周りの大人たちは主役である子どものために互いに手を取り合うことが望ましいはずです。
しかし、現実にはそうしたかかわりは中々実現されていません。
私が教師として勤め出した頃に比べて、状況はより難しくなっているとすらいえます。
それどころか、不必要なまでに相手の存在を恐れ、反目し合うかのような関係すら見られる状況も存在しています。
変化の激しい時代です。
制限の多い時代でもあります。
先の見えない不安から、その恐れを相手にぶつけたくなる気持ちも分からなくはありません。
でもやはりこんな時代だからこそ、我々は手を取り合うことが大切なのだと思います。
相手の弱みをあげつらい攻撃し合うのではなく、足りない部分は補い合い、強みを生かし合って走っていこうとする決断を、今こそはっきりと下す必要があるのだと思います。（中略）
教師が一人で全ての役割をこなし、万能者を目指す時代は終わりを迎えています。
そのやり方自体が、社会の変化スピードにマッチしていないといった方が近いでしょう。
人々のニーズが加速度的に変化し、多様化していく現代において、教育における諸々の課題を教師が一手に引き受けることはとうに限界ラインを超えています。

それでも尚、全ての荷物を抱えながら孤軍奮闘のレースを必死に走り切ろうしている方々は少なくありません。
その懸命に力を振り絞る姿が、仮に学校現場のシステムエラーを助長している側面があるとするならば、それは一つの悲劇です。
教師は完全無欠でなければいけないという幻想や縛りを卒業し、伴走者同士がお互いの強みを豊かに引き出し合う在り方が実現することが、本書のメインテーマです。
教師・保護者双方が喜びや幸福を感じながら伴走できる在り方を実現し、子どもたちの健やかな成長を支える一助になることを目指して筆を進めていきます。

我々教職員は、子どもたちのより良い成長を支える為に、できることを精いっぱいやりたいと思っています。
とは言っても、教師も人間なので苦手なことや不得意なことがたくさんあります。
つまり、教師の力だけでは沢山のお子さんの豊かな成長を支える上では力が足りないのが実情だということです。
そうした意味でも、よりよいクラスを作り、充実した学びを実現していく上では保護者の皆様のご協力が欠かせません。
この学年通信 Venture fourth も、学校のみが発信を続ける一方向（ワンウェイ）型ではなく、家庭からのお声を紹介したり、相互に交流できるような双方向（ツーウェイ）型の通信となることを目指しています。
ですから、すでにこうして届き始めたお家の方からのお便りが本当に嬉しかったのです。
連帯のはじめの一歩を踏み出せたことの喜びを感じながら、今日も子どもたちとの大切な時間を大切に過ごしたいと思います。
そこで、お家の方からもアイディアをいただきまして、Venture fourth の読者ページを作ってみました。
https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit

ペンネームなども活用しながら、どうぞ楽しくご参加いただければ幸いです。
お家の方からの豊かな声が届くことは、間違いなく学校・学年を元気に、そして笑顔にします。